

## 「『○○ごっこ』と思えば、心も軽くなる」

校長 辰田 幸敏



「どうしてこんなことをやらなくてはならないのだろう」と思うことが、私にも時々ある。君たちも家や学校でも、友だちの中でもきっとそう考える時があると思う。

例えば、

- ◆ 「何でこんな勉強、しなくちゃならないんだ」
- ◇ 「何で部活動でこんな球拾いばかりしなくちゃならないんだ」
- ◆ 「何で私ばかり、家の手伝いをさせられるのよー」
- ◇ 「みんな怠けているのに、どうして私だけ係だからと言ってやらなければならないの？」

毎日の生活の中でこんなことがたくさんあると思う。「何で」「何で」と思うとどんなことでもやるのが嫌になり、できるものなら投げ出したい気持ちになるのではないだろうか。

でも、そこから逃げる訳にはいかない、と言うのが君たちの現状だろう。

こんな時、私は若いときから「ごっこ感覚」でやることにしている。勉強は「勉強ごっこ」、球拾いは「球拾いごっこ」、手伝いは「手伝いごっこ」と、何でも一種の遊びと考え、どうせやるなら遊びのつもり楽しくやろう。その方がいい結果を出せるはずだと自分に言い聞かせて、何事にも取り組むことにしている。どうせやるなら、憂鬱(ゆううつ)気分をルンルン気分になり切れるようにしている。

こう考えると、不思議に能率よく、いい仕事ができることに気づいた。意外にいい結果を出せるような気もする。

何事も発想の転換が大事であり、プラス思考で臨むことである。

## H25年度第2回「学校評価」とH25年度学校経営の総括

今年度の学校評価の総括として、昨年7月実施した第1回評価と比べ、第2回学校評価は全体的に低下している。特に、学習面において、1年生の低下が顕著である。

また、生活面においても同様、特別に指導を受ける生徒が他学年と比べても多く、高校生としての自覚、本校生の誇りが感じられないのは残念である。そういう意味からも、本校の課題は、将来の夢や設計を明確に持たない生徒が多いことである。

今後、本校として取り組むべきことは、基礎学力の定着・向上はもちろん、「在り方・生き方教育」の一層の取り組みを強く感じる。

新年度は、改善策を講じ「チーム佐実」を合言葉に大きく飛躍したい。

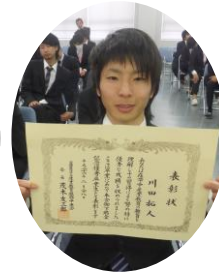
## 自動車工学専攻科第33回「卒業式」－25名が学舎を巣立つ

3月1日(土)、平成25年度自動車工学専攻科生25名が本校を巣立ちました。

39名の保護者も参列され、厳粛な中にも心温まる卒業式となりました。前日には、表彰式が行われ、北川 凌君が今年度から贈られる「日本私立中学高等学校連合会会長賞」、川田 拓君が、「産業教育振興中央会会長賞」を受賞しました。

また、今年度の就職は、大学生の就職率が低迷している中、専攻科は、88%と高い就職率であり、残りの学生も現在就職試験を受験中ですので、近々、就職内定100%の報告が聞けるものと思われます。

なお、3月23日(日)に、最終目標である二級自動車整備士の国家試験が実施されます。この2年間、専攻科で学んできた知識を存分に発揮し、「全員合格」という吉報が届くことを在校生・職員一同、期待しています。



## ㈱スズキ自販長崎から新車ワゴンR 2台を寄贈!

3月17日(月)、澄みきった青空のもと、㈱スズキ自販長崎様から実習車として、新車の「ワゴンR」2台が本校の自動車工学科に寄贈されました。

車両贈呈式が11時から開催され、㈱スズキ自販長崎 代表取締役社長 廣渡英敏様から、本校 後藤雅章理事長に寄贈車両2台の鍵が手渡されました。

その後、廣渡社長様から、「スズキの最新技術が詰まったこの車で、新しい技術を身に付け、整備士の勉強に励んでください」と生徒たちへの激励のことばがありました。

また、後藤理事長と生徒代表の専攻科 豊島 逸郎君が感謝のことばを述べ、最後に、後藤理事長から廣渡社長へ感謝状が贈られました。

今後、自動車業界の発展に寄与できる整備士の養成を目標に、職員一同、この2台の新車を活用し、生徒の技術力向上に励んでいきたいと思っております。

